

# 提 案 概 要

実施期日	8月2日(火)
部会名	中学校 国語部会

**1 提案テーマ** 『書く力を高める授業の工夫～生徒が主体的に学習する授業～』

**2 単元(題材)** 「立場と根拠を明確にして書こう 意見文を書く」

**3 学年** 第2学年

**4 平成27・28年度神奈川県中学校教育課程研究会研究主題とのかかわり**

- ① 国語科における基礎的・基本的な知識及び技能の習得とこれらを活用して思考力、判断力、表現力等をはぐくむための年間指導計画、評価計画及び学習指導の工夫・改善
- ・相手や目的に応じて自分の考えを的確に書いたり、発表したりする指導の工夫・改善

**5 学習指導要領との関連**

第2章 第1節 国語 第2 各学年の目標及び内容 [第2学年] 2 内容 B 書くこと

(1) イ 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること。

ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。

エ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすること。

**6 実践に向けての課題意識**

「書くこと」は、自己表出の方法として身につけたい力であるとともに、「書くこと」を通して考えを深めることにもつながることから、「書くこと」以外の内容項目を習得するうえでも重要な技能であると考え。平成27年度の全国学力・学習状況調査の結果から、全国の結果と同様、神奈川県も「書くこと」の能力への課題が浮き彫りになった。本校の生徒を対象にしてアンケート調査を行ったところ「学校の授業以外で文章を書く機会がありますか」という問いに対して「書くことがある」と回答した生徒は少数で、授業で書く活動を行う際も苦手意識がある生徒が多い。

このような実態を踏まえて本研究では、3年間を見通した「書くこと」の指導において、生徒の書く意欲を引き出すことや書く能力を高めることを目的とし、市の学校教育研究会中学校国語部会の助言を得ながら実践をすすめた。

**7 実践の概要**

これまで「書くこと」の学習を行った際の、生徒の感想やアンケートから、生徒に「書きたいことはあるがどう書けばよいか分からない」という思いがあること、書いた後に作文を読み合う「交流」の授業では「自分の意図がうまく読み手に伝わらない」と感じていることが分かった。このような課題を解決するため、「論理的な文章構成ができること」と「推敲を行う中で、より説得力のある読みやすい文章にすること」の2点に重点をおいて授業づくりを行うこととした。また、その中で生徒の意欲をかき立てるテーマの設定や、生徒がよりよい文章づくりに取り組むための手立てを大切にした。

本単元は「日本人の英語力を考えよう」をテーマにし、英語に対する様々な観点からの意識調査をもとに、今後日本人は英語とどのように付き合っていくべきかを考え、意見文にするという内容である。2年生の「書くこと」の学習の仕上げとして、これまでの学習で培ってきた技能である書く材料のまとめ方や構成、推敲などを生徒が意識しながら学習をすすめていけるように工夫をした。

**8 成果と課題**

成果として、生徒が自ら全体の文章構成を考えながら文章を書くことができるようになったことや、進んで推敲をするようになったことが挙げられる。また、自分の作文の良い点や課題を意識することができるようになったと感じる。その一方で、分かりやすさや説得力については十分に力がついたとは言えず、それらの力を身に付けさせる手立ても工夫の必要があると感じる。生徒の主体的な「書きたい」という思いを引き出しつつ、論理的に書く力を育成することをめざし、更に指導方法を考えていきたい。

**9 予想される協議の柱**

- ・生徒の書く意欲を引き出すための工夫。
- ・意見文や批評文を書かせる時の指導の工夫。